支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和（元）年度 線を意識してなぞり書きをしよう
授業について	教科名等	□国語　□社会　□算数/数学　□理科　□生活　□音楽　□図画工作/美術　□家庭/技術・家庭　□体育/保健体育 □特別の教科　道徳　□外国語/外国語活動　□総合的な学習の時間　□特別活動　■自立活動　□各教科等を合わせた指導 □その他の教科　□その他（　　）
	単元・題材名	線を意識して書こう
	授業の目標	・なぞり書きのアプリを使い、始点と終点だけではなく、字形を意識してなぞる。
	学力の3要素	□「知識及び技能」 □「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	□通常の学級　□通級による指導　□特別支援学級　■特別支援学校 □就学前　■小学生　□中学生　□高校生以降 □特定されない （ 4 ）年 （ 1 ）人
	対象の障害	□視覚障害　□聴覚障害　■知的障害　■肢体不自由　□病弱・身体虚弱　□言語障害　□自閉症 □情緒障害　□LD（学習障害）　□ADHD（注意欠陥/多動性障害）　□その他
	子供の困難さ	■見ること　□聞くこと　□話すこと　□読むこと　□書くこと　□動くこと　□コミュニケーションをすること　□気持ちを表現すること ■落ち着くこと・集中すること　□概念（時間、大きさ等）を理解すること　□学習（計算、推論等）すること　□その他 ・マジックや絵の具のなぐり書きをすることはできるが、始点や終点でうまく止めることが難しい。 ・手首を机に付けながら書くことができないため筆圧が弱く、ゆっくりなぞることができない。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援（□A1意思伝達支援　□A2遠隔コミュニケーション支援） B活動支援（□B1情報入手支援　■B2機器操作支援　□B3時間支援） C学習支援（□C1教科学習支援　■C2認知発達支援　□C3社会生活支援） D実態把握支援（□D1実態把握支援） ・始点と終点が一画ずつ表示され、なぞる線がずれてしまうと次の画に進めないアプリを使用することで、始点と終点を意識してほしい。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	支援機器：iPad アプリケーション：にほんごーひらがな にほんごーカタカナ たのしいひらがな
授業展開	授業展開・支援の手立て	休み時間にiPadを自由に使ってもよいことにした。iPadを自ら操作し、「にほんごーひらがな」「にほんごーカタカナ」の両方のアプリを使うようになった。始めは教師が手伝ったが、慣れてくると一人で指を使ってなぞり書きをするようになった。アプリは、始点と終点が一画ずつ表示され、ずれてしまうと次の画に進めないため、児童が一人で取り組むことができたが、はらいや曲がりなどの形が整っていなくても次に進めてしまうため、正しいなぞりができるわけではなかった。指で直接線をなぞれること、間違えた線は自動的に消えて新たに書き直しができることが児童にとって使いやすく前向きに取り組んでいた。 1月からタッチペンを導入すると、ペンを使ってなぞり書きができるようになった。また、はらいや曲がりを意識してなぞり書きができるように「たのしいひらがな」という新しいアプリを使うようにした。始点と終点をつなぐだけではなく、線の上をなぞるようにペン先を動かそうとするようになった。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	ホワイトボードにマジックで字を書く学習では、書いた文字を消されると、間違いを指摘されたようで嫌がることが多かったが、アプリでのなぞり書きは嫌がることなく取り組んでいた。始点と終点を直線でつなぐようになったので、始点と終点を字形を整えながら書く練習ができるアプリを新しく活用した。まだ字形を意識してなぞりをすることは難しく、塗り絵をするようにタッチペンを動かしているが、意欲的に取り組んでいる。手首を浮かして腕全体を動かして書いているため、筆先が安定せず、紙に書く学習に移行しづらい。教師が手首を上から軽く押さえるように補助すること、また手首を動かすように教師が直接支えてやることが必要だった。